



廿日市市教委だより

第2号

平成27年6月8日

～子どもたちの笑顔を守るのはわたしたち～

中国地方も梅雨に入り、子どもたちの通学の列にカラフルな傘の花が咲くようになりました。

また、5月の連休明けから、多くの学校で、運動会・体育祭が実施されており、関係の学校の先生方、お疲れ様でした。

短期間での取り組みではありましたが、クラスが一丸となるために、子ども同士が話し合ったり、工夫したり、時にはけんかしたりする中で、一人一人の子どもが大きな達成感・満足感を得るのではないのでしょうか。まさに、「自己有用感」を強く感じる、格好の機会になったことと思います。

さて、今回は、5月に行った行事を中心に紹介しています。そして「夢・つながりプラン」の一つの柱となっている「教職員が育つ職場づくり」について、現地取材を行いました。



各学校で「命の大切さについて」考えました。

本市では、昨年度から5月8日を「命の大切さについて考える日」と設定し、いじめを許さず、お互いの命を大切にする雰囲気醸成する取組を全市的に行っています。

それぞれの学校、学年で工夫した取組を実施しており、子どもたちの感想には、いじめを許さない強い思いも込められていました。

また今年度は、生徒会によるいじめ防止に向けたメッセージの発信や、児童がいじめ問題を考える劇を行うなど、子ども達が主体的に活動する学校が、昨年度より大幅に増える傾向がありました。各学校では、引き続き「いじめの起こらない集団・学校」に向けて取り組んでいただくとともに、12月に設定している「いじめ防止推進月間」にもつなげてください。



【生徒会執行部による「いじめ撲滅宣言」】

各学校で工夫して行われた取組及び児童生徒の感想の一部を、廿日市市HPでもご紹介いたします。ぜひご覧ください。

「廿日市市いじめ防止対策委員会」では、市や学校の取組について協議しています。

いじめ防止対策推進法に基づき、本市ではいじめの防止やいじめに関する通報や相談について調査審議する「廿日市市いじめ防止対策委員会」を設置しています。委員会は、学識経験者、学校関係者を含む7名で組織しており、今年度は5回の会議を持つこととしています。



【委員会の協議の様子】

	氏名	所属等	職名	専門分野
1	井上 周子	あまね総合法律事務所	弁護士	法律
2	砂田 雅志	廿日市市立佐伯中学校	校長	学校経営
3	塩山 二郎	(株)心理臨床センターしおやま	臨床心理士	臨床心理学
4	志和 資朗	広島修道大学	教授	臨床心理学
5	西野 泰代	広島修道大学	教授	教育心理学
6	匹田 篤	広島大学大学院	准教授	メディア情報学
7	松江都志美	廿日市市立大野東小学校	校長	学校経営

5月18日（月）に第1回会議を開催し、いじめ問題への早期対応に加え、未然防止策を重視する方針を確認し、新規事業「つながり支援プロジェクト」の推進や、命を大切さについて考える日の取組について協議しました。つながり支援プロジェクトで高めていく「自己有用感」については、委員から「中学生は他者を意識して生きている。比較してコンプレックスを抱く時期でもある。人との関わりの中で自分を見つけ、他者から認められていく自己有用感は大事な」といった意見も出されました。

校務支援システムに関する研修が進んでいます。

今年度からの校務支援システム本格運用開始に合わせて、各校代表者による集合研修や、各校訪問サポートを随時実施しています。校務支援システムの円滑な運用のために、限られた時間の中ではありますが、できる限りのサポートをしていきたいと考えています。

これから、学期末へ向けて成績処理、通知表の打ち出し等、システムを使用して初めての作業があります。慣れるまでは、今までより負担を感じることもあると思いますが、市内全学校で同じシステムを使用することは、長い目で見てみると大きな業務改善につながります。

職場内で助け合いながら、扱いに慣れていただき、困った時は、教育委員会に相談してください。



【大野学園 PC 教室での研修風景】

スクールソーシャルワーカー（SSW）は、福祉の専門家として、環境に働きかけ、つなぐ役割・コーディネーター的役割を担います。

子どもたちの抱えるさまざまな問題に向き合うとき、子ども自身の問題というより、子どもを取り巻く環境に問題があるのではないかと感じられたことはありませんか？

こんな事例に対応しています。

- 保護者との信頼関係を作り、福祉機関や病院等と連携し不登校の改善を図った事例
- ひきこもりの子どもへの定期的な家庭訪問を実施し進路等の見通しがもてた事例
- 各関係機関での共通認識のためのケース会議を開催し、同じ目標をもち連携し対応した事例
- 保護者の家事サービスや子どものデイサービス利用等福祉サービス利用を促し改善を図った事例

**SSW は、『子どもの最善の利益』を中心におき、ネットワークを構築し支援を展開していきます。』
積極的に活用してください。**



アメリカからの留学生と一緒に学びました。

5月13日から8日間、アメリカコネチカット州のノーウォーク市から7名の中学生が本市に訪れました。目的は、日本の中学校生活を体験したり、日本の文化に触れたりすることです。

今年は、廿日市中学校が受入校となり、授業、給食、部活動など、生徒とともに貴重な体験をすることができました。

授業の中で日本の伝統文化を体験したり、食べたことのない給食に挑戦したり、部活動で武道の精神を教わったりと、彼らにとって初めてのことばかりの8日間は、きっと生涯の宝物になることでしょう。

英語、日本語、ゼスチャーを駆使しながら、なんとかコミュニケーションをとろうとがんばる廿日市中学校の生徒を見て、本物を体験することのよさとはここにあるのだなと実感しました。

温かい受け入れ、ありがとうございました。

手首のスナップをきかせてね。



国語の授業より
「日本の伝統文化を
伝えよう（茶道）」

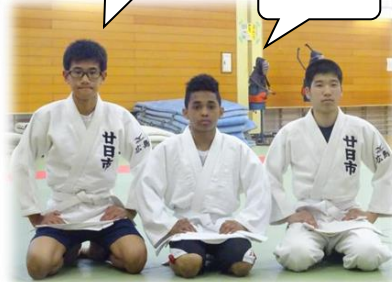
ラケットはこう持つと
うまくできるよ。



卓球部に訪問
みんなとても親切でした。

道着を着たら、きりっと
した顔でね。

OK!



ずっとやってみたかった
柔道部に訪問

“The school students were very nice! I’ m really going to miss them.”

(アメリカ留学生のアンケート記述より)

京都府乙訓市町議会議長会が宮島小・中学校に視察に来られました。

5月20日に、京都府乙訓市町議会議長会10名が、管外研修の行政視察として、宮島小・中学校に来られました。京都府乙訓市町議会議長会は、京都府向日市、長岡京市、大山崎町の2市1町からなる組織です。

今回の視察は、特に「中学生の英語ボランティア」についてのものでした。

当日は、安井校長先生の挨拶、視察団会長からの挨拶ののち、八川教頭先生からの説明を受け、活発な質疑が行われました。

八川教頭先生の熱の入った説明と、それを驚いた様子で聞いている視察団の姿を見て、改めて、世界遺産宮島を抱えている校区の強みと、その中で成長している子どもの頼もしさを感じました。



【視察団への説明の様子】

「教職員が育つ職場づくり」 vol.1

先生方同士が主体的に学び合い、高まって欲しいという願いをこめて、「教職員が育つ職場づくり」を、今年度の学校教育プラン（夢つながりプラン）に掲げています。教育委員会だよりでは、そんな先生方の様子を伝えていきます。

先日、阿品台中学校へお邪魔し、今年2年目の横澤ひかる先生（写真左）と、昨年度拠点校指導教員として横澤先生を指導された勝島恵利先生（写真右）から直接お話を聞きました。勝島先生は、今年度阿品台中学校へ転勤となり、横澤先生と同じ学年に所属しています（何か運命を感じますね！）。



<昨年度の初任者研修を振り返って>

（横澤先生）「ペアやグループの活動を、どのように仕組んだらいいか、悩み試行錯誤していました。」

（勝島先生）「教材によって、ペアがいい場合や4人班がいい場合があるから、全ての子どもに達成感が得られるように、何もしない子が出ないように、と助言したと思います。昨年の生徒は女子が面倒見がよく、ペアが効果を発揮することが多かったので、横澤先生がテストの答合わせをペアでさせていたのはとても効果的で、私にも参考になりました。」

（横澤先生）「授業だけでなく、生徒との日頃の人間関係作りがとても大切だということも学びました。普段からのかかわりや、何気ない言葉かけが大切だと思います。」

（勝島先生）「次の年は、横澤先生が担任を持つ、ということ意識して指導していたけど、昨年からは先生は授業開始前にはもう黒板の前で待っていましたね。授業が始まるまでのほんの数分が、人間関係作りで生きていたと感じました。授業を見に行ったら、もう授業始まりの形が出来ていて、すごいなって思ったことを覚えています。」

（横澤先生）「勝島先生が他の先生に頼んでくださって、自由にいろんな先生の授業を見に行けたことも、とても参考になりました。同じ教科の先生の授業の仕方は、大変参考になったので、去年はそんな環境を作っていただきとても恵まれていたと思います。」

<今後に向けて>

（勝島先生）「子どもの実態は様々で、実態に合わせて指導しなければならないけど、これだけは、という内容はしっかりと持ち、ぶれずに指導できる先生になって欲しいと思います。」

（横澤先生）「今年1年目の先生に、「去年はどうでしたか？」と聞かれて身が引き締まる思いがしました。昨年と同じではいけないと思います。去年頂いた引き出しを生かして、さらにチャレンジしていきたいと思います。」

取材を終えて

素直に学んだことを吸収し、教師としてまっすぐに成長している横澤先生の姿と、やさしく温かい中にも、初任者の将来を見通して、芯を持って指導してこられた勝島先生の姿が、とてもまぶしく感じられました。また、初任者を指導する先生方が、逆に初任者からも学ぼうとしている姿勢がすばらしいと思いました。廿日市市の教育は、このような先生方によって支えられていることを改めて実感しました。取材の間、2人の先生の様子を「姉妹みたいだなあ・・・」と頼もしそうに眺めていた田浦校長先生の様子も印象的でした。